



1939年9月28日、ポーランドはナチ・ドイツとソ連によって分割され、リトアニアはヴィルナ地方を併合した。分割から国境閉鎖に至る2カ月の間に、25万人以上のユダヤ人がドイツ併合地からソ連併合地へ脱出した。終戦時まで生き残ったポーランドのユダヤ人といえば、大部分がこの時の脱出者である (242頁参照)。

地図33は、3つに分割された地区のユダヤ人口(ドイツ軍の侵攻時)である。ドイツ第三帝国が東へ拡大していくにつれ、ユダヤ人が次々とドイツの支配下へ入った。ヒトラーが権力の座についた時(1933年1月)のドイツ在住者数の4倍である。

ポーランドにおけるドイツの残虐行為は、9月の殺人に端を発する(33頁)。次にとられた政策が追放である。短期間だったが、じつに残忍なやり方で実行された。地図34は、東方への追放で、数字の残っている主要な例である。1939年末までに数万人のユダヤ人が国境の河川へ突き落とされた。多数が溺死、泳げる者も渡河中に狙い撃ちにされて殺された。

ヘウムから追放されたユダヤ人1800人のうち、生き残ったのは400人にすぎなかった。数百人は、最後の瞬間になってソ連兵がソ連領への越境を認めなかったため、立往生の状態におかれた。

